

2024年2月22日

Tusheng Ren 教授（中国、中国農業大学）招聘報告書

農学部 専任教授 登尾浩助

2023年10月16日から2023年10月23日まで、明治大学国際交流基金事業として中華人民共和国の中国農業大学から Tusheng Ren 教授を招聘した。Ren 教授は、サーモ TDR 法として現在世界で広く使われている土壌物理性を原位置で測定するセンサーを開発して、広く世界に普及させた著名な研究者で、アメリカ土壌科学会フェローでもある。本学に滞在中、2回の講演、土壌物理学会大会への参加、および土地資源学研究室所属の学部生・大学院生と研究交流を行った。

第1回目の講演は、10月17日17時10分から18時50分まで土地資源学研究室所属の学部生と大学院生を対象に

「Thermo-TDR method for measuring soil physical properties

and processes（土壌の物理的性質とプロセスを測定するためのサーモ TDR 法）」と題した極めて専門性の高い講演を生田キャンパス中央校舎 0302 教室で実施した（図1）。参加者数は23名であった。講演は英語で実施し、受入れ教員の登尾の逐次訳を適宜入れた。講演終了後は、参加者との質疑応答を活発に行った。

第2回目の講演は、10月18日9時から10時40分まで、生田キャンパス中央校舎メディアホールで実施した。講演題名は、「Conservation Tillage: A Viable Option for

Sustaining Soil Productivity in Northeast China（保全耕うん：中国東北部における土壌生産性維持のための有効な選択肢）」で、特に農学部農学科初学者を対象とした講演を依頼した（図2、3）。参加者は140名程度であった。講演の前半は、基礎的な土壌学に関するクイズ形式の

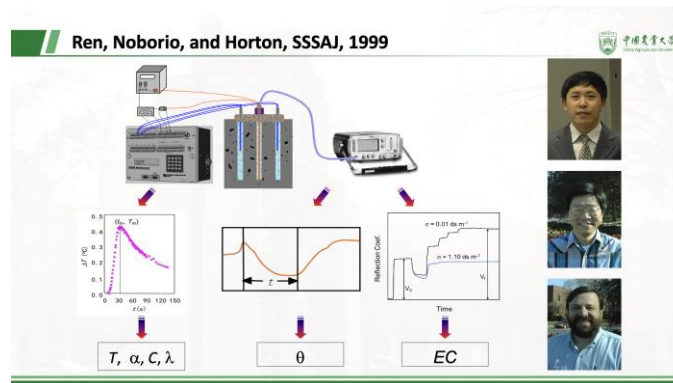


図1. 講演題名になったサーモ TDR 法開発に関するスライド

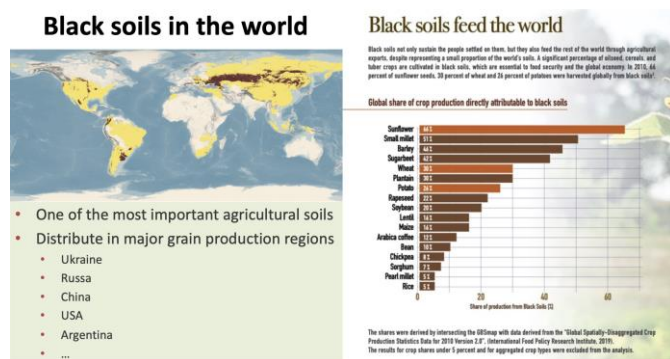


図2. インタラクティブ講義を取り入れた講演

スライドを使って聴衆の興味を引き付けた。インタラクティブ講義の見本のような講演であった。講演は英語で実施したが、初学者対象としたので受入れ教員の登尾の逐次訳を挟みながら進行した。講演後は、多くの受講生が個別に質問に押しかける結果となった。また、2時限目に授業がある学生からはメールでの質問があった。Ren 教授は、学生が非常に熱心であることに驚嘆した様子で、素晴らしい学生達だとお褒めの言葉をいただいた。

10月21日は生田キャンパスで開催された2023年度土壌物理学大会に参加した。特に、ポスターセッションでは多くの日本人若手研究者や大学院生との研究交流を実施した。また滞在中は、土地資源学研究室の学部生・大学院生に対して研究アドバイスをするなど、活発な交流を行った。

今後の交流計画について、先ず学生や若手研究者の交流から始めるのが理想的との合意に至った。



図 3. 国際連携本部作成の講演を知らせるポスター

以上